

第2ラウンドにおける検討事項について

○公的統計の整備の考え方（スキーム・基準関係）

I 統計ニーズの把握方法

【第1ラウンドでの主な議論】

- 1 統計利用者と統計作成者の意見交換の場は必要。
- 2 各省横断的な場が必要。
- 3 従来、各省が行ってきたニーズ把握は引き続き行う。
- 4 意見・要望の聴取の頻度については、聴取する意見・要望の範囲、その方法等をどのようにするかによる。
- 5 把握したニーズへの回答は必要だが、事務処理体制も考慮する必要。
- 6 把握した要望を統計整備に反映される仕組みをどのように構築するか。

【第2ラウンドで更に検討が必要と考えられる事項】

- ア 各府省横断的な仕組みを整備する際に、
- ① どのような機能を持つべきか
 - ・ 広く様々な意見を聞くのか、論点を絞って聞くのか
 - ・ 論点を絞る場合、どのような方法で行うか
 - ・ 統計委員会との関係をどう考えるか 等
 - ② どのような効果を期待するか
 - ・ 事業所母集団データベース等、調査基盤の整備の向上
 - ・ 回収率の向上等、各省共通の課題に関する研究
 - ・ 一府省の優れた取組みを各府省の共有とする 等
 - ③ 仕組みの組織形態をどうするか
 - ・ 構成員の範囲
 - ・ 常設とするか否か
 - ・ 事務処理体制をどうするか 等
 - ④ 具体的な運用（要望等の把握実施回数、時期等）はどうか
- イ ニーズ把握に関して、各省個別の仕組みと府省横断的な仕組みとの役割分担は如何にあるべきか。
- ウ ニーズを具体的に反映させる仕組みはどのようにすべきか。

Ⅱ 基幹統計の指定基準の明確化

【第1ラウンドでの主な議論】

- 1 基幹統計の指定基準の具体化（例示、目安）が必要だが、しぼりすぎるのは、よくない。
- 2 基幹統計の指定については、可能な限り基本計画に記載することが原則だが、その後の新たなニーズにも対応できる柔軟な対応も必要。
- 3 基幹統計の品質を確保するための統計調査の基準については、IMFデータフレームワーク（DQAF）などを参考に作成。

【第2ラウンドで更に検討が必要と考えられる事項】

- ア 基幹統計の指定基準の具体化としては、どのようなものが考えられるか。
（例）国民生活に密着、利用範囲、継続性、地方集計の可能性、他の統計の存立基盤となるもの根拠となるもの 等。
- イ 加工統計及び業務統計については、基幹統計として指定された統計が持つべき品質等の判断基準として、どのようなものが考えられるか。統計調査によって作成される基幹統計と共通の要素もあるが、他の視点はああるか。
- ウ 将来推計人口等の将来推計値の作成を目的とするものについて、指定することができることは適当か。また、その際、どのような点に留意すべきか。

Ⅲ 統計調査の見直し、効率化の考え方

【第1ラウンドでの主な議論】

- 1 優れた統計を作成するために整理合理化を行うというのは共通の理解。
- 2 今後の取組みについては、評価に関する議論を踏まえることが必要。
- 3 整理合理化に当たってユーザーニーズとの関係をどのように判断するか。
また、共通の指針としてどのようなものが必要か。
- 4 なお、「整理合理化」という言葉は、削減を前提としているような誤解を招くので、今後「統計調査の見直し、効率化の考え方」という言葉に変更する。

【第2ラウンドで更に検討が必要と考えられる事項】

- ア 統計調査の見直し、効率化に際し、政府横断的な指針・基準を設けるべきか。また、設けるとした場合、その考え方、具体的内容はどのようなものか。
- イ 統計作成者、実施者、報告者により統計調査の見直し、効率化の視点は異なるので、それぞれの視点に応じた考え方につき、どのように集約、総合化するか。

IV 統計の評価

【第1ラウンドでの主な議論】

- 1 評価は必要であり、その仕組みを構築すべき。
- 2 現状では各府省で評価を実施しているが、今後は同一の分野の個別統計間で優先順位がつくような共通の評価基準を作るべき。
- 3 調査の実施機関に関してではなく、個別統計についての評価に取り組む必要がある。
また、基本計画策定時に統計委員会として政府横断的な評価を実施することが適当。
- 4 既存の政策評価は組織単位の評価、基本計画の中で取り組むのは個別統計に関する評価を明確にするということで整理が可能。

【第2ラウンドで更に検討が必要と考えられる事項】

- ア 各府省における（統計に関する）政策評価は何を評価しているか。基本計画において取り組むべき統計の評価とは何か（目的、内容等）。
- イ 統計自体の評価の視点・基準をどのようにすべきか。
（例）
- ・ 精度、回収率等
 - ・ 政策部局、業界団体、学界等のユーザーニーズ
 - ・ 報告者負担
 - ・ 海外の統計との比較
 - ・ 加工統計（SNA等）や国際機関が使用している統計との整合性
 - ・ 評価が低い場合の原因の把握と将来の見通し 等。
- ウ 評価システムをどう構築するか（評価者は誰か、どのように評価するか等）。
- エ 評価を踏まえ、どのように改善を図るか。